

# 人口減少地域における中学生を対象とした 地域連携型キャリア教育

園田 雅江<sup>1</sup>・片岡 由香<sup>2</sup>・大政 進平<sup>3</sup>

<sup>1</sup>一般 愛媛大学准教授 社会共創学部産業マネジメント学科 (〒790-8577 愛媛県松山市文京町 3 番)  
E-mail: sonoda.masae.jj@ehime-u.ac.jp

<sup>2</sup>正会員 愛媛大学講師 社会共創学部環境マネジメント学科 (〒790-8577 愛媛県松山市文京町 3 番)  
E-mail: kataoka.yuka.kq@ehime-u.ac.jp

<sup>3</sup>. 一般 (〒790-0823 愛媛県清水町 2 丁目 14-12)  
E-mail: assist.ehime.1@gmail.com

都会への憧憬や期待を抱き進学や就職を機に故郷を出た若者が地元に戻らない地方の課題解決のために、学校教育において地域愛着を醸成するための「ふるさと学習」を実施し、高等学校等においてキャリア教育が実施されているが、進路指導に近い内容でライフプランやキャリアデザインに訴求するプログラムや環境を用意できていない。そこで、本研究は、人口減少の進む愛媛県八幡浜市の中学生を対象とし、自分のライフキャリアと地元理解を重ね合わせて考えるプログラムを実施し、中学生向けの有効なキャリア教育プログラムを開発することを目的とする。具体的には、地元の大人や大学生とライフキャリアについて語り合う機会を設け、プログラムの前後の意識変化について、地域愛着、時間的展望に着目した分析からプログラムの効果検証を行った。

**Key Words:** decrease in population, career education, life plan, career design

## 1. はじめに

地方都市を中心に少子高齢化が深刻化しており、社会の様々な分野において影響を与えている。少子高齢化の根本的な問題は、人口減少ではなく、年齢人口の割合の変化によるものだと考えられ、特に 15 歳から 24 歳の高校・大学進学世代が進学や就職を機に流出したまま戻ってこない現状を抱える地域においては、地域社会を維持していく上で喫緊の課題となっている。少子高齢化の対策として、賃金問題や未婚率問題などに向けた政策が検討されているが、それだけでは持続可能な対策とはならない。これらの地域課題を解決していくためには、人々が主体的に社会に参画し相互に支え合うための環境整備や、社会全体の教育力の強化が重要であると考え<sup>1)2)</sup>。

一方で、中学・高校の学習の中で自分が生まれ育った地域のことを学ぶ機会やキャリアデザインを体系的に考える授業は少ない。その理由としては、プログラムが構築できていない、生徒に当事者意識をもって考えさせるような教育手法が確立していない、受験も含め忙しい学校行事スケジュールのなかでじっくりと地元に向き合う時間が課外にはとれないことなどがある。

本研究では、人口減少という喫緊の課題を抱えるエリアにおいて、進学や就職で地元を離れる前の中学生を対象に、地元理解×キャリアという、ふるさと学習を取り入れたキャリア教育プログラムを実践する。プログラムが、中学生の地域愛着、時間的展望、動機づけにどのような影響を与えるのかについて分析し、プログラムの実施効果について明らかにすることを目的とする。そのことによって、地元への関心を持つきっかけを得た上で自身のキャリアを考え進路を決めることができるようなサポートをすることの意義について示唆を得たい。

## 2. 研究対象

### (1) 研究対象地概要とプログラム実施経緯

本研究の対象地である愛媛県八幡浜市は、愛媛県南予地方に位置する市であり、北に伊予灘、西に宇和海を望み、人口は 33,219 人 (男 15,528 人, 女 17,691 人)、世帯数は 16,002 世帯の都市である。温暖な気候と傾斜の多い地形を生かし、柑橘類の栽培が盛んな地域である。

この八幡浜市を含む愛媛県の南予地方では平成に入った頃、既に高齢化の時代になっており、かつ少子化も既

に進んでいた（国勢調査、住民基本台帳人口動態表）。南予地方の中でも宇和島都市圏、大洲都市圏、八幡浜都市圏、愛南町の 4 地域では、15 歳から 24 歳の高校・大学進学世代が流出したまま戻ってこないという現状がある。実際に本プロジェクト実施前に、八幡浜市内の中学校でヒアリングをしたところ、多くの生徒が将来は八幡浜市を出ると答えているが、その根拠について詳細に聞くと、働く場所がない、仕事がない等、必ずしも正確とは言えない情報によって思い込んでいる面も垣間見えた。また、自分自身の将来像を思い描いたうえで市外に出ることを決めるのではなく、出ないと仕方がない、という様に他に選択肢がないので仕方なく決めるといった傾向がみられる。このような中学生・高校生が、地元で働いている人の声を直接聞き、現状を知ることや、将来やってみみたいことを思い描き、そのために何を勉強しどのような進路選択をしていけば良いのか？を真摯に考えたうえで、進路を決定しキャリアプランを作成することは重要であると考えられる。

そこで、八幡浜市役所の地方創生推進プロジェクトチームと連携し、八幡浜市の市立八代中学校で正課の時間（総合学習の時間）を使ってキャリア教育パイロットプログラムの実施と効果測定を実施した。このような教育プログラムの実施は、人口流出を直接的にとどめる効果は大きくないかもしれないが、当事者意識をもって地元の課題を考える機会を提供し、進学や就職のタイミングで南予エリアから流出したとしても、常に地元のことに思いを馳せ自分に出来ることは何かを考えることができるようになることの効果は大きいと考えられる。卒業を機に地元企業に就職する人や自ら起業する人、スキルや経験をみにつけた後に戻ってくる人、他の地域や都市エリアから移住してくる人など、多様な生き方を受け入れながら将来に備えていくことは多くの付加価値を生む可能性がある。

## (2) 「地元理解×キャリア教育」プログラム

本研究におけるプログラムは、総合的な学習の時間を使用し実施した。プログラムの簡単な流れは表 1 の通りである。2019 年度に実施したプログラムの大まかな流れとして、一学期は、八幡浜市役所の方から八幡浜市の特徴を学び、自分が特に興味を持った題材を研究テーマとして各自調べ学習を行った。その後、第一回の校外学習（地域内の産業の現場見学と関係者への質疑応答）に赴き、振り返りを行った。夏休み中には、地域の活性化に取り組んでいる大学生の講話、家族など身近な人へ仕事に関するインタビューを行うよう宿題の提出を求めた。2 学期は、第 2 回校外学習、文化祭での成果発表の機会が得られた。その後、八幡浜にゆかりのある大学生や地域のひととの座談会「カタリバ」が行われ、ドリームマッ

表 1 プログラムの実施内容

2019/05/22	八幡浜市のイメージ話し合い,事前アンケート
2019/05/31	講話①「八幡浜市の八つの宝」,市職員との座談会
2019/06/11	事前ライフラインの作成,個人テーマの設定
2019/06/20	調べ学習
2019/07/03	調べ学習,校外学習①の計画
2019/07/11	校外学習①（仕事内容の紹介,現地調査）
2019/07/16	校外学習①の振り返り,中間発表会①
2019/08/05	講話②「等身大のまちなみ活動」
夏休み中	身近な人へのインタビュー
2019/09/12	発表会「仕事への思い」,校外学習②の計画
2019/09/19	校外学習②
2019/09/24	校外学習②のグループ内発表,中間発表会②
2019/10/04	文化祭発表に向けて,発表資料作成①
2019/10/08	発表資料作成②
2019/10/16	発表資料作成③
2019/10/23	発表資料作成④
2019/10/25	発表資料作成⑤
2019/10/27	文化祭での発表と掲示
2019/11/11	大学生や地域住民との座談会（語り場）
2019/11/22	ドリームマップの作成
2019/12/05	事後ライフラインと事後アンケートの実施
2020/02/21	中学生向けの企業合同説明会
2021/02/26	第二回オンラインによる語り場
2021/12/20	これまでの総合の振り返りワーク

プの作成を行った。2020 年度以降の活動は、新型コロナウイルス感染症の影響によって限定的なものとなったが、2021 年 2 月 26 日には 2 年時を対象としたカタリバを実施した。また、2021 年 12 月 20 日には 3 年生を対象に、これまでの総合的な学習の時間を振り返るワークシートの作成を行った。

## 3. プログラムの効果検証

本プログラムの効果を検証するため、地域愛着やシンビクプライドに関するアンケート調査、感想シートのテキスト分析、ライフライン法による分析を行った。

### (1) アンケート調査

本プログラムの効果を分析するため、アンケート調査を実施した。実施時期（対象者の学年）は表 2 の通りであり、生徒の人数は 59 名である。

表 2 アンケートの実施時期と実施日時

アンケート種類	実施時期	実施日時
地域愛着	1年時 (プログラム前)	2019年5月22日
〃	1年時 (プログラム後)	2019年12月5日
〃	3年時	2021年12月20日
時間的展望	1年時 (プログラム後)	2019年12月5日
動機付け	3年時	2021年12月20日

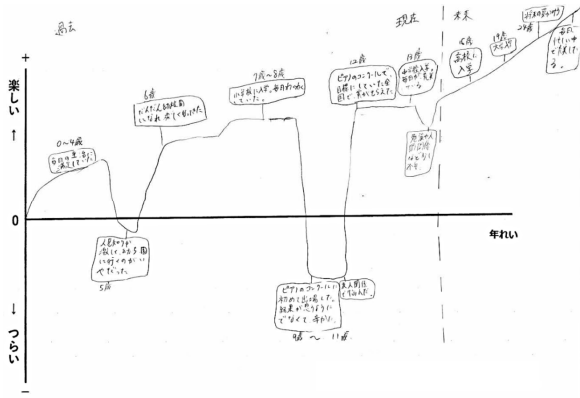


図 1 ライフラインの記入例

本アンケートは、地域愛着、時間的展望、自己決定理論<sup>3)</sup>に基づく動機付けに関するものの3種類である。地域愛着に関するアンケートは、本プログラムが生徒の地域愛着を醸成しているかという点を検証するため実施した。時間的展望理論に関するアンケートは、本プログラムによって、生徒が自身の過去を受け入れる姿勢を育んでいるか、現在の充実感を感じられるようになるか、未来に対し計画的に考え、希望を持つことができるようになるかという点について効果がもたらされたかどうかを検証するため質問項目を設定した。自己決定理論に基づく動機付けに関する項目は、時間的展望と地域愛着との関連を見ることで時間的展望と地域愛着が動機づけにおいてどのような影響を及ぼすのかを明らかにするため質問項目を設けた。

### (2)感想シートの作成

プログラム中に生徒が作成したワークシートやプログラム終了後に作成した感想シートの記述を元に、テキスト分析を行った。

### (3)ライフラインの作成

ライフライン法は、キャリアガイダンス研究の中で注目されている質的アセスメント技法の一つである。質的アセスメント技法とは、文章完成法、面接法、自由記述法などの手法を用い、本人の主観的な側面からキャリアを捉えようとする手法のことである。ライフラインは、キャリア教育の現場においてしばしば用いられ、自分の人生の過去・現在・未来を一本の曲線で表すものである。具体的には、横軸に時間経過、縦軸に気分・自尊感情のプラスマイナスを記した用紙に、過去・現在・未来の自

分を想像しつつ、その浮き沈みをグラフに表し、様々な地点における自身の状態や気持ちをその時のおおよその年齢とともに記入するというものである。今回は対象が中学生であるため、上部に「楽しい」、下部に「つまらない」と記入した。実際の記入例は、図1のようなものである。

## 4. おわりに

本稿では、人口減少地域における中学生を対象とした地元理解×キャリア教育プログラムを実施し、その効果を検証した。効果検証として実施したアンケート調査では、地域愛着、時間的展望、自己決定理論の3つの視点から、どの活動に効果があったのかを検証することができた。まず、地域愛着については、プログラムを実施することで発言傾向、友好関係、他者評価の項目が上昇することがわかった。一方で、3年時とプログラム実施直後と比較すると、友好関係、他者評価については減少することが示され、時間経過と共に減少してしまうことが明らかになった。また、3年時の地域愛着の水準は、プログラム実施前の状態を維持しており、プログラムには地域愛着の減少を抑え、地域への愛着を維持する効果があることが示された。地域愛着の醸成のためには、地域愛着だけに重点を置いていたのでは効果を得ることが難しく、それ以外の側面からも効果のある活動にしなければならないと考えられる。時間的展望理論については、プログラム実施直後から3年時にかけて過去受容のみ減少する結果が見られた。また、地域愛着と時間的展望の醸成は、より高位の動機づけに基づいて学習に取り組む姿勢を育むことに効果をもたらした。また、テキスト分析では、プログラムを実施するにつれ、未来について考えるようになり、人生についても考えられるようになることが明らかになった。また、プログラムが進むにつれ、認知的な活動から自分の内面の成長につながる活動へ変化することが示唆された。

**謝辞:** 本研究を遂行するにあたり、八幡浜市立八代中学校関係者の皆様、八幡浜市役所の皆様に多大なるご協力をいただきました。ここに謝意を表します。

### 参考文献

- 1) 文部科学省：教育課程企画特別部会論点整理 補足資料, 平成28年
- 2) 遠藤学, 片桐史裕：商業高校における地域連携活動を通じた生徒のキャリア意識の変容に関する研究, 上越教育大学教職大学院研究紀要, Vol.7, Feb.2020.
- 3) 下村英雄：最近のキャリア発達理論の動向からみた「決める」について, キャリア教育研究, vol.26 ,pp.31-44,2008.